

東祖谷におけるソバウチとカラサオ

民俗班 (徳島民俗学会)

磯本 宏紀

要旨： かつて焼き畑で知られた祖谷地方の畑作は変容し、傾斜地を利用した常畑でのソバ・アズキなどの栽培がより小規模に自給的に行われるようになってきている。しかし当地では、カラサオなど全国的にもほとんど使われなくなった農具が現役で使用されている。本稿はソバウチに着目し、東祖谷でのカラサオの用法および形態について検討し、ソバウチの際に謡われた仕事唄もあわせて報告した。

キーワード： カラサオ¹⁾、ソバウチ、仕事唄、畑作

1. 畑作と脱穀

東祖谷では、かつて焼き畑で栽培されていた作物の1つがソバである。たとえば、火入れをして1年目がソバ・ヒエ、2年目にはショウズ（アズキ）・ダイズ、3年目以降にミツマタを植え、6年目にはスギを植樹するというサイクルで焼き畑栽培が行われた時期があった。昭和40年前後を境にほとんど行われなくなり、畑作は集落周辺の常畑が主となった。そうした変化のなか、ソバやショウズの栽培、その他多種の野菜栽培が行われ、全体として耕地面積を減らすなかで、小規模ながら自給目的も含めた傾斜地を利用した畑作が行われている。

なお、脱穀作業ではカラサオを使用するだけでなく、収量が少ない場合にはショウズやダイズをヨコツチで打つことで脱穀する場合も増えているという。

2. カラサオの形態

カラサオの形態について、打撃部、柄部、軸部と分類し、各部位ごとに計測したものを表1として整理した。打撃部が木製で丸単棒のもの、鉄条3連の

もの、竹条4連のもの3種類が見られる。これは、磯本(2004)でも指摘しているが、木製や竹製の打撃部から鉄製の打撃部のものへ、概して鉄製のものを好む人が少なかったものの、選択的に変化した。しかし、竹条のものと、丸単棒のものとが併存する場合、変化の経緯がどのようなものなのかという問題が残る。これについては別稿に譲る。

久保地区や小川地区での聞き取りでは、No.5と同様のモウソウチクを割って束ねた形で結束させた竹条4連の打撃部をもつカラサオをつくり、使用してきた家がある。鉄条3連のカラサオは竹条4連のものと打撃部の形態は近似である。

打撃部の長さは100cm前後であり、No.6・7は若干短いものだが、柄の長さとの比を見ると、52.6～75%となり、個体差が大きく見られる。

磯本(2006)において、藍住町での脱穀用具のカリサオを紹介した。この藍住町の事例と表1を比較すると、打撃部の長さがほぼ近い数字であるのに対し、柄の長さが短く、したがって(打撃部の長さ)／(柄の長さ)の比率が全体的に高いことがわかる。また、打撃部は竹条4連のものも確認できたが、東祖谷民俗資料館所蔵資料2点を含め、丸単棒を使用し

表1 カラサオ計測値一覧表

No.	呼称	地域	打撃部長さ (cm)	打撃部幅 (cm)	柄長 (cm)	柄径 (cm)	打撃部/柄比 (%)	軸長 (cm)	軸幅 (cm)	打撃部形式	軸取り付け方	打面積 (cm ²)	全体重量 (g)	打撃部重量 (g)	打撃部素材	柄素材	軸材質	対象作物	使用者名	所蔵	調査日	備考
1	カラサオ	東祖谷落合	107.4	3.0	159.4	3.1	67.4	22.9	4.0	丸単棒	巻き軸	408.0			ツバキ	マダケ	カシ	ソバ, ムギ, アズキ, ダイズ	櫻浦フサノ S.5生	櫻浦フサノ	2006/10/26	
2	カラサオ	東祖谷大枝	98.1	3.8	168.0	3.3	58.4	6.8	3.1	丸単棒	巻き軸	356.1			カタギ (ツバキ)	マダケ	不明	ソバ, アズキ	佐伯高則 S.7生	佐伯高則	2006/10/27	「大工■や」の焼印が軸部にあり。
3	カラサオ	東祖谷大枝	98.0	3.3	130.7	3.3	75.0	23.0	4.1	丸単棒	巻き軸	323.4	970	580	カタギ	マダケ	カシ	ソバ, アズキ, ムギ, ダイズ	岡本計美 S.3生	岡本計美	2006/11/10	の焼印が軸部にあり。
4	カラサオ	東祖谷大枝	102.2	2.9	147.5	3.2	69.3	19.5	3.2	丸単棒	巻き軸	296.4	1310	790	カタギ	マダケ	カシ	ソバ, アズキ, ムギ, ダイズ	岡本計美 S.3生	岡本計美	2006/11/10	「岡本」の焼印が軸部にあり。
5	カラサオ	東祖谷久保	105.2	5.6	174.5	3.2	60.3	17.5	3.4	竹条4連	巻き軸	589.1	1780	1310	モウソウウチク	マダケ	カシ	ソバ, アズキ, ダイズ, ムギ	久保好道 T.14生	徳島県立博物館	2007/1/9	
6	カラサオ	東祖谷	81.3	4.3	154.5	4.2	52.6	26.3	3.7	丸単棒	巻き軸	327.7	1320	680	木(ツバキ科?)	マダケ	カシ	不明	不明	三好市立東祖谷民俗資料館 No.85-1	2003.11.25 蔵本(2004)より引用	
7	カラサオ	東祖谷	90.5	6.6	122.1	4.6	74.1	23.2	5.6	鉄縦条3連	巻き軸	597.3	2030	1640	鉄	マダケ	カシ	不明	不明	三好市立東祖谷民俗資料館 No.85-2	2003.11.25 蔵本(2004)より引用	

※打面積 = (打撃部1本あたりの幅) × (打撃部の軸以下の長さ) × (打棒本数) で最大予測値として計算した
 ※材質でカタギは堅い木を意味し、実際にはツバキが使われることが多い。

ているケースが多かった。それらは、材質がツバキの枝の樹皮をはぎ、削って使っている。

3. カラサオ使用の記憶

カラサオの計測と同時に聞き取りもした。一般に唐笄と称される脱穀具は、徳島県の多く地域でほとんど使用されないものだが、東祖谷ではソバウチなどの用途で現在も使われる。しかし、ソバやショウズの生産量を減らした家も多く、作業量は多くない。

表1のNo.2・3のカラサオを所有する岡本家では現在ソバ、ショウズの脱穀に使用する。2本のカラサオを所有するが、それぞれ柄の長さが違う。使い手の背丈に合わせて柄の長さを決めている。ソバウチの場合、ムシロを2重に敷き脱穀したソバに砂利が混ざらないようにする。横に戸板を立て、カラサオで打った穀物が飛散しないようにする。ソバはハサにかけて10日から2週間天日で乾燥させ、よく晴れた日を選んでソバウチする。南向きに位置する大枝、落合などでは11月初旬に、北向きとなる地区ではそれよりも1週間から2週間ほどソバウチをす

る時期が遅くなる。

久保地区の久保好道家で使用されるカラサオは、今回提示した東祖谷のほかの事例とは異なる竹条4連の打撃部をもつ。これは、丸単棒より打面積が大きく、一度に大量のものをこなすのに適している。かつては竹条の打撃部のカラサオを使う家が多かったという。

4. ソバウチの唄

ソバウチの際、唄の調子にあわせて作業をすることもある。『東祖谷山村誌』など民俗誌には多数の民謡が掲載されるが、これらは主に明治40年代生まれの歌い手によって謡われたものである。

大枝地区の岡本計美家でのソバウチでは、ここに掲載されていない唄も謡われた。ソバウチは2006年11月10日午前中に行われ、筆者はこの作業に参加し観察した。ここで謡われた唄は仕事唄に限定して謡われるものでもなく、酒宴や祭りの際にも謡われるものであること、さらにそれぞれの唄は、作業を進めながら異なる唄を、少しずつ間を空けながら謡っ

たものであることを断っておく。また、ときに「ヤーレ ソレソレヨイヨイヨイっと」などという掛け声を間にはさむこともある。

- 今日のお客さんは シラミかノミか
ノミはノミでも 酒呑みじゃ
- つらいことですよ この子がなけりゃ
生んで 二の花咲かすのに²⁾
- いやというのに 無理やりはめて
はめて泣かすは 籠の鳥
- お山で高いのは イザリさん
まだまだ高いのが 剣山
6月半ばにゃ 雪溶けて
祖谷川流れて 吉野川
- 肩をたたいて これこちの人
今朝 どなたが食べたか教えてくれ
- 西は石鎚 東は剣 (つるぎ)
四国山脈 一跨ぎ
- 信州信濃の 新蕎麦よりも
わたしゃ あなたのそばがよい
- 逢 (お) うてうれしや 別れがつらい
お前さんとなら どこまでも
- 嫁はいんだが 嫁はいらん
嫁の部落へ 孫つれに
嫁に行くなら お隣おいで
行けど 戻れど 禰がけ

ソバウチの際確認できた唄は以上の9種だった。男女関係や婚姻に関する唄が多く記憶され、謡われている。いずれの唄も東祖谷での生活環境や社会生活が反映された歌詞であると考えられる。

なお、ソバウチ以外で子どものころに聞いて覚えている唄として、落合地区の檜浦フサノ氏より以下のような肥負い唄を聞いた。山小屋で母親に連れられて粉挽きをしているとき、山道で牛にカヤを運ばせていた人がいつも謡っていた唄だという。

- 下へ下へ檜木 (かしき) を流す
下で枯れ木に花が咲く
- 来よりもすぞ クリヨセ (栗枝渡) 越えて
真鍮 入れ歯の 若い衆が
- 酒は飲みたし 酒屋は寝よる
起きとる酒屋にゃ 借りがある
- 話はおやめ 仕事をしよる

唄は仕事の はかをやる³⁾

いずれも、話者自身が仕事唄として謡った唄ではなく、子どものころ大人が謡っているのを楽しみに聞いたというものである。

5. まとめ

本稿では、東祖谷におけるカラサオの形態および使用状況について報告し、さらにカラサオの用途の1つであるソバウチの際に謡われる唄を報告した。現在、多くの地域で仕事唄の聞き取りや生活の中でのカラサオ使用を見ることができない。そうした中で、本稿においてある程度の事例を集積することができた。さらに、磯本 (2006) などの唐竿のデータとの比較により、東祖谷で使用されるカラサオの特徴を次のように指摘できる。

第一に、比較的小型のカラサオで小規模な脱穀作業が行われ、その対象作物がソバ、アズキ、ダイズなど雑穀・豆類を中心とすること。この点において、磯本 (2006) と対照的である。

第二に、現在も仕事唄として謡われる唄が辛うじてではあるが記憶され、たとえばソバウチの際に謡われていたこと。こうした唄は、東祖谷の生活環境や社会生活の一端を謡い込んだものでもある。

注

- 1) 本文中では「カラサオ」「唐竿」の表記を併用している。「カラサオ」は調査地における呼称として、「唐竿」は日本における類似の脱穀具の総称として用いた。
- 2) 東祖谷山村故事収集委員会・ひがしいやの民俗編集委員会編 (1990) では、「つらいことだよこの子がなけりゃヨ 生んで二度花咲かすのにヨ」という近似のものが記載される。
- 3) 近似のものとして、小西 (1965) には「歌はおうたい話はおやめ 歌は仕事のはか (能率) をやる。」という唄が、エジマとして掲載される。

謝辞： 聞き取り調査およびカラサオ等の計測において以下の方々をはじめとして多くの方にお世話いただいた。ここに記して感謝申し上げる。(敬称略、五十音順)

岡本計美・岡本フジ子・柿本正幸・柿本良子・檜浦フサノ・久保好道・佐伯高則・下西キミコ・西口文子

参考文献

磯本宏紀（2004）：山間地で使用されるからさお，徳島地域文化研究，2，110～121頁．

磯本宏紀（2006）：藍住のカリサオ，阿波学会紀要，52，153～156頁．

小西国太郎（1965）：『秘境祖谷物語』祖谷山岳会文化部，132～145頁．

武田 明（1955）：『祖谷山民俗誌』古今書院．

俵 裕（1993）：『図説民俗誌 秘境と落人の里 祖谷』徳島県出版文化協会，54～55頁．

東祖谷山村故事収集委員会・ひがしいやの民俗編集委員会編（1990）：『ひがしいやの民俗』東祖谷山村教育委員会，319～336頁．

東祖谷山村誌編集委員会編（1978）：『東祖谷山村誌』東祖谷山村誌編集委員会，805～828頁．



写真1 No.1のカラサオとソバウチ（落合地区）



写真2 No.2のカラサオ



写真3 No.5のカラサオ



写真4 No.3・4のカラサオによるソバウチ(大枝地区)